

平成18年度第1回 函館市観光アドバイザー会議 会議録

1 日 時 平成18年12月27日(水) 14:00~15:45

2 場 所 庁舎 8階 第1会議室

3 参集者 ・別紙出席者名簿のとおり
・報道機関(道新, 函新)

4 内 容

(1) 開 会

(2) 座長挨拶

(3) 報告事項

- ・平成18年度上期の観光動向について
- ・平成18年度の観光振興策について

(4) 討 議

番匠座長

- ・事務局からの報告事項に関し, まずご意見をいただきたい。

阪口委員

- ・オンパクに関しては, 湯川の皆さんが少しずついろいろな形で協力して成功し, 「次回もやるぞ」という意欲が湧いてきたのがよかったと思う。
- ・内容についてはまだまだ不十分なところがあるが, 半年開催であるので順次改善していければよいと思う。お客の満足度は非常に高かった。
- ・オンパクは小さなイベントがたくさんあるため, 色々な人とつながりを持つことが良いと思う。また, たくさんのイベントは街を表現する場であり, それは街の活力だと思う。

鎌鹿委員

- ・(オンパク講師として参加したのだが) 意識したのは「おもてなしの心」だった。笑顔で, お客さんを待つのではなくこちらから迎えに行く, そして送迎までをしっかりとやることを心がけた。
- ・また, 新しい発見をどのように伝えていくか。今までのものをブラッシュアップしていけばまだまだ良くなると思う。
- ・今後, はこだて検定などで, ライセンスを持った人たちがどう関わっていくかが課題だと思う。
- ・私はオンパクを, 函館の観光を凝縮したものではないかと思う。

番匠座長

- ・オンパクのパンフを見るとパソコンがないと申し込みできないようだが？

星野委員

- ・オンパクのアンケート（回収率約75%、うち自由記入欄記入約9割）で自由記入欄の意見のうち約9割がお褒めの言葉であったが、残り約1割に今後の課題となる提言があった。その中でPRが足りないというご指摘を受けた。パンフを2万部印刷したのだが、30万人都市で2万部あっても足りないのだなと感じた。
- ・申し込みはパソコンでもできるが、基本は電話。会員登録が必要だが、電話でもパソコンと同じ内容の事項をオペレータが聞き取りしてデータベース化することになっている。
- ・オンパクの事業システムは別府オンパクから無償提供していただいたため、短期間でスムーズに事業を行うことができた。
- ・今後、情報をいかに知らせるかが課題となるが、1回目を経験した人がのべ2,000人、うち会員登録は700人おり、その方々にはパンフレットをダイレクトに郵送するなど、効果的に情報発信したい。
- ・毎日ある複数のイベントをいかに知らせるか。参加するための手段、お知らせするための手段の実験だと思っている。このイベントはいつあるんだろうではなくて、明日何のイベントがあるのだろうかというニーズに応えられる情報発信の仕方をしたい。
- ・運営の仕方や情報発信の仕方は他でも活用できることなので提供していきたいと思う。また、他に活動している団体とネットワークを形成し、互いのノウハウを共有していきたいと考えている。

古川委員

- ・はこだて検定の実施にあたっては、出版社などに丸投げするのではなく、手作りでのテキスト作成を心がけた。編集した先生方をはじめ、いろいろな方々に助力いただいてなんとか出版することができた。3,000部を作成したのだが、すでに完売の見通しとなっている。
- ・色々な評価をいただいているが、何せ初めての試みなので多少の間違えも出てきている。また、中学生からお年寄りまで読めて分かりやすい本を心がけたが、多少専門的なものも含むものになった。
- ・初級の検定試験を3月11日に行うべく準備を進めているが、かなりの反響があるのではないかなと思う。初級なのであまり難しいものにはしたく

ないなと考えている。

- ・目的そのものが試験に合格することではなくて、市民や観光客により広く函館を知っていただくことが目的で、その反響は順調だと思っている。
- ・19年度には上級試験をやろうと考えていて、これはなかなか合格できない、かなり難しい試験にしようと思っている。
- ・テキストに関してはこの本で終わりだとは考えておらず、場合によっては改訂版を出すなど、より良いテキストを作っていきたいと考えているので、皆さんからの忌憚のない意見をいただきたい。

根本委員

- ・(はこだて検定の編集委員として執筆したのだが)何年か後にもう少しオリジナリティのあるものを準備する必要があるのではないかなと思う。今回の内容に関しては、隣の部屋の歴史の教授が褒めていたのでいいのではないのでしょうか。
- ・あの期間の中で書くのは大変だった、という感想を持っている。
- ・この本がきっかけとなって、図書館に行って勉強する人が増えればいいなと思う。

丸藤委員

- ・シーニックバイウェイに関してだが、資料のとおりシーニックバイウェイの指定を受けたのだが、市民がどれだけ函館の魅力を知っているのか、また関係する団体がお互いどのような活動をしているのか、あまりにも知らなかったのが、情報分科会としてはそこを検討材料にあげた。
- ・分科会では函館の魅力を再発見するために「いろはかるた」を作成した。これにより、魅力を探るセンス、そしてそれを表現するセンスが磨かれているような気がする。

鎌鹿委員

- ・点のイベントをつなげて線にしたり、知られていない施設の魅力を表現し、形にして光を当て商品化したいと思っている。シーニック・バイ・ウェイなので道すがら自然や文化、歴史などを紹介していければと思う。

番匠座長

- ・「のりかえマップ」に関して、こういうのがあれば便利だと思う。路線バスは複雑だというイメージがあるので、観光客は随分助かると思う。さらに言えば、最近外国人(特に中国)の観光客が多いので、英語版と中国語版もあればいいなと思う。

丸藤委員

- ・私は駅前で商売しているが、よく外国人が銀行や郵便局を探しているので、そういうのも記号で表記できればいいと思う。ただ、国際観光都市にしては外国人が利用するための利用時間が短すぎるような気がする。

星野委員

- ・ATMは19:00で閉まるし、そもそもカードが利用できる店が少ない。(国際的なカードを利用できる店はさらに少ない)

鎌鹿委員

- ・高齢化社会に向けてのホスピタリティを考えると、デジタルコンテンツとこののりかえマップのような印刷媒体の両方が必要だと思う。これには結構な経費が必要だと思う。
- ・誘致活動はよく目にするが、受け入れ体制の充実も大事なのではないだろうか。

番匠座長

- ・次に、テーマを絞らず、函館観光に対する意見を述べていただきたい。

阪口委員

- ・知人が函館に来たとき、よく函館山の夜景を見せにいくのだが、悪天候で見られなかったときの代替え策があればいいと思うが・・・。
(クレモナホールで映像を放映しているが、知らない人がいるということはアナウンスの仕方がわるいのかも知れない)

星野委員

- ・函館山に登って夜景が見られなかったら、ロープウェイ料金を返却した方がいい。夜景を見るために上るのだからね・・・。
- ・観光客を案内している函館の人は、割安にしてもいいと思う。
(五稜郭タワーもそうなればいいと思う)
- ・観光客が夜景を見に来てだめだったとき、何か満足させるものが必要だと思う。それがホスピタリティだと思う。

鎌鹿委員

- ・ガイドはよく代償措置を考えるのだが、夜景も、見られなかったときの代償措置をよく考える必要があると思う。

番匠座長

- ・クレモナでの放映をしっかりとアナウンスできれば解決すると思う。
- ・また夜景を説明する人がいない。あれは何の光だとか建物だとか・・・。

内村委員

- ・湯川のホテルの中には、夜景の情報をフロントで提供しているところもある。みんながみんな何もしていないわけではない。
- ・12月1日から25日まで、ボランティアガイドと歩く散策ツアーを開催し111名が参加した。効率面など仕組みの部分でさらに検討していく必要がある。
- ・添乗員が無料となっている施設もあるが、入口まで添乗員が連れて行き、館内は別に案内しますというやり方をしているところが多い。

番匠座長

- ・昨年の報告書でコンベンション調査費を付けて欲しいとお願いしたが、付かなかった理由についてはどうなっているのだろうか。

事務局（坪谷室長）

- ・全く付かなかったわけではなく、新幹線時代を見据えた中で全体的な調査費が付いており、現在、企画部、商工観光部、商工会議所、コンベンション協会で検討組織を立ち上げているところだ。

番匠座長

- ・北高と東高が合併すると、北高の校舎が開くわけで、それを有効利用する手はないのだろうか。新築でなくいても、まずコンベンションを誘致する体制を整えてはどうだろうか。
- ・また、内村委員のところでは、ある団体がコンベンションを開催したいので協力して欲しいと言ってきたら、どのような協力をしているのか。

内村委員

- ・手提げ袋やパンフを差し上げることができる。また、資料の袋詰めや受付のお手伝いもしている。

番匠座長

- ・コンベンション開催の基本的な部分は団体任せと言うことになるのか。例えば会場の押さえや下準備をあれこれ世話するという体制ではないということか。(YES)
- ・コンベンションを誘致するとなると、まずは会場を押さえること、そして開催までの下準備ができるような体制がないといけない。こういった話はどこでどう話せばいいのだろうか。

星野委員

- ・この話は1～2年前からしているのだが、どこが主体となって取り上げる

べきものなのかハッキリしない。観光目的なのか、コンベンション施設なのか、多目的ホールなのかで担当が変わるような話なので、トップが判断してやるところを決めないと、個々の部局で話をしてもなかなか話が進まない。そのためには我々をはじめ、世論の声を大きくしていかなければならないと思う。

番匠座長

- ・大きなコンベンションを誘致できれば、観光入り込み減を補うだけのものはあると思う。
- ・湯川温泉などは、コンベンション開催に対応した料金設定を組織だとしてしないと、駅前のビジネスホテル群に負けてしまうと思う。
- ・誰がリーダーシップを取ってやるのかを決めないと進まない。議論は沢山されているのだが、実りが無いものになっている。

星野委員

- ・商工会議所では検討されていないのか。血判状でも作ってやってもいいのではないか。

古川委員

- ・工業部会などではメインテーマになって検討されている。

鎌鹿委員

- ・外環状線ができたときに、北高校付近の日吉インター周辺の土地利用は注目されている。コンベンションホールの建設など早期に方向性を示すべきではないだろうか。

古川委員

- ・建設となるとすぐに採算性の問題が取り立たされるが、経済界の中では、多少赤字になっても経済波及効果が大であればいいのではないかと考えている。
- ・会議所としても、市の重点施策の一つに盛り込んでもらえるように検討を進めていきたい。建設場所については、交通の便や駐車場の確保などを考えると検討しなければならないことがたくさんあると思う。
- ・年明け早々に、市の観光室と会議所とコンベンション協会で会合がありますので、そういう中でも議論していきたいと思う。

星野委員

- ・建設の議論も進めていかなければならないが、一方で、今からでもできる、コンベンション誘致のための、開催のノウハウだとか、開催経験を積むだ

とか，現状で満足を得られているかとか，情報発信は適正かなど取りかかれるものはたくさんあるので，早急に始めた方がよい。建物を建てたからと言って誘致できるものではない。建てるまでにソフト面の充実を図るべきだ。

番匠座長

- ・昨年，国際ホテルとロイヤルホテルの両方を使って会議をしたのだが，ある意味不評だった。行ったり来たりがああ距離でもだめで，タクシーを使っていた。

星野委員

- ・昨年松原先生のところで，未来大を1週間休みにして学会を開催したのだが，最大のネックは交通機関だったという。遠すぎるしバスの本数は少ないし，駅前で「Future University」と言ったら乗車拒否されたという。
- ・大学内部のケアは十分だったが，一歩外に出ると，函館は外国人にとってコンベンションに参加し，その後を楽しむには不十分な街だったようだ。
- ・笑い話だが，ルートインに宿泊予定の外国人が，駅前広場でホテルを探せなかったという。(あんなに大きくルートインと書かれてあっても)ローマ字で書かれていないので分からなかったようだ。これが現実だと思う。
- ・これは外国人が一人で函館を歩くには，いかに大変かと言うことを物語っている。

石田委員

- ・はこだて検定の案内は学校にはいっているのか。(事務局：チラシ，検定要項を各校に配付済。教員の中にはテキストを授業で使用する声もある)
- ・将来の話だが，小3ぐらいから英語教育が始まるので，テキストを勉強して，英語で案内できると素晴らしいと思う。

根本委員

- ・今回のテキストは中学生レベルで作成したが，これを小学生用にするとなると次元が違うものになる。言葉を優しくするだけでなく，編集を変えなければならない。

丸藤委員

- ・問題集があればいいなと思う。

古川委員

- ・あちこちで，どんな問題を出すのか聞かれるが，初級はそんなに難しくしない予定です。一通りテキストを勉強すれば合格できるようにする。

鎌鹿委員

- ・合格が70%とすれば、知識の詰め込みでも大丈夫だと思う。シニア世代、ライセンスマニアなども含めて大変な数が受験すると思う。あとは観光を業としている人が、いかに受験し、活用していくかが課題だと思う。

古川委員

- ・タクシーの運転手やホテルのフロントなどの方々に受験していただきたいというのが本音です。

鎌鹿委員

- ・このテキストぐらいの知識は必要だが、ガイドは知識だけではだめで、次のステップでは知識ではなくその人の雰囲気だとかが重要だと思う。次の検定では検討する必要があると思う。また、合格した後の勉強が必要で大事だとも思う。

星野委員

- ・このテキストを作って終わりなのではなくて、この本を中心に置いて、いろいろな人づくりの事業を広げていくことが大事だと思う。

番匠座長

- ・予定の時間になりましたので、そろそろ終わりたいと思う。
- ・本日いただいた意見については、会議録として取りまとめ、市に対しての提言に変えたいと思う。

事務局（妹尾観光課長）

- ・本日の会議録に関しては事務局で精査し、とりわけコンベンションに関する今後の進め方に関しては座長や両部会長などと協議して、観光施策の展開に反映させてまいりたいと考えております。